

会 議 録

1 会議名

令和6年度第2回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議の進め方について（公開）

【報告事項】

- ・地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて（公開）

3 開催日時

令和6年7月23日（火）午後6時30分から午後7時55分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 高橋和彦（副会長）、有島正美、石田秀一、太田政幸、金子弘子、金子祐樹、佐伯妙子、杉田昭広（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋副会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：石田委員、太田委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・参考資料「第4期北諏訪区地域協議会 取組概要」に基づき説明

【高橋副会長】

前期の地域協議会で地域活性化の方向性を検討する際に、北諏訪区だと誰もがわかるものをキャッチフレーズに入れようという話になり、「さくらの学校、美しい田園風景、飯田川」というフレーズは、全部北諏訪小学校の校歌の歌詞に出てくるもので、この言葉だけで十分北諏訪を表現できるということで、このキャッチフレーズにさせていただいた。構成要素については、地域で活動している北諏訪まちづくり振興会と意見交換を行い、絵に描いた餅で終わらないように、実現の可能性があるものを検討した。

引き続き【自主的な審議】自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.1「自主的審議の進め方について」

資料No.2「各地域協議会で現在審議中の自主的審議事項テーマ一覧（R6.3.28現在）

「上越市地域独自の予算事業の概要（抜粋版）」に基づき説明。

本日ご協議いただきたいのは、自主的審議として、この協議会でどんなことを話し合っていくかということをご検討いただきたい。

【高橋副会長】

資料No.1と地域独自の予算事業について、質問、意見等を求めるがなし。

4年間、何か自主的審議にするテーマをと考えたが、最終的に結論には至らず、なしという形になった。

資料のテーマ一覧で気になったのは、吉川区の取組の20番、「高齢者に配慮した移動手段」というテーマである。

高齢者が運転免許証を返納すると、病院やスーパー等へ行くときに移動手段がない。それを手助けする方法として、地域で車を1、2台確保して、移動手段がない方のために車を走らせる事業を実施するという方法がある。これは名立区がかなり前からやっていて、名立区の住民組織が車を購入し、スーパーや病院へ行きたいけれど行けない高齢者等を乗せて、病院やスーパーに連れて行くという事業を行っている。

北諏訪区は、まだそこまでの不便はないのかもしれないが、5年後10年後には必要になってくるのではないかとということで、こういった取組に関心を持っていく必要があ

るのではないかと感じている。

さて、今期の協議会で自主的審議としてどんなことを話し合っていくかについて検討していきたい。自主的審議は、地域住民としての観点から、地域の課題や地域の活性化などについて協議会で話し合っ、時には地域の団体等と協力して解決方法を探っていくものであるが、まず、委員の皆さんから、この区で課題だと思っているものや、この区がこんなふうになってほしいと思っていることを、ざっくばらんにお聞きしたい。

名簿順で、有島委員から願います。

【有島委員】

福橋では、昔、自分が消防団にいるときに7. 1 1水害があり、その後はそれほど大きな水害はないが、何年かに一度は田んぼに水がついてしまうような雨が降ることがある。八千浦地区の保倉川放水路の進捗は、自分の住んでいる地域では大きな問題だと思う。

【石田委員】

ほかの区の自主的審議事項を読ませていただくと、空き家の問題を検討している区があり、この地区でも空き家が出てきているのではないかと思う。その空き家を、逆に利活用するというようなところも、どこかであったように思う。そういうことが必要になってきているのではないかと思う。

先ほど高齢者の移動の話が出ていたが、自主的審議事項を読んでいて、この辺はバスの便も悪いし、車で移動できる間はいいが、免許を返してしまったとなると、高齢者のみの世帯では買い物が困難になるのではないか。特に、合併前上越市ではないところでは、そういうことが現実問題としてすごく大きくなってきているのではないかと思った。

【太田委員】

中真砂も高齢者が多い。バスが通っていないので、移動手段がない。私もあと30年ぐらいしたら免許を返さなければいけないと思うが、そのときに、自分も移動手段がなくて困る生活になってしまうのか、非常に心配している。

あと、洪水等になったときに、北諏訪小学校は危ないと思う。なぜあそこが指定避難所になっているのか、疑問に思っている。

【金子弘子委員】

ここに長く住んでいながら、地域の実態について、例えば、この地域にはどういった方々が住んでいらっしゃるのか、どういった組織があるのか、私自身がよくわからない

ということもある。例えば、北諏訪区で、高齢者の中でも、一人世帯とか高齢者だけの世帯の方々が、どれぐらいいらっしゃるのか、どういったところに住んでいらっしゃるのか、そういった実態を知ることにも必要ではないかと思っている。

なぜかという、今年の元旦に地震があったが、町内会が安否確認にご苦労されたと思う。そういったときに、どこにどんな方がいて、どういう支援が必要なのかをあらかじめわかっていると、災害があったときにも支援しやすいと思う。

今の時代、個人情報なので難しいのかもしれないが、地域の中でどういった支援が必要な方がいらっしゃるか、知っておくことは大切なことではないかと思うので、例えば、福祉マップ的なものを、手がけてみるのもいいのではないかと思う。

少し前に、すこやかサロンの会議があったときに、声をかけられて参加したことある。参加する方が固定化されてきていて、参加されている方はとても喜んでいらっしゃるが、なかなか新たな参加者は増えていないとのことであったが、おそらく、それは会場まで来る移動手段のことでもあるのではないかと思う。

移動手段に何か手当ができれば、地域のコミュニケーションやいろいろな方がつながりやすくなるのではないかと思うし、そういった方々に、何が困っているのか、どんなことをしてほしいか、生の声を集めていけば、課題や問題等が少しずつ見えてくると思う。一つの手がかりとして、福祉マップ的なものを手がけてみてはどうかと思う。もうされているところは多いと思うが、まだない地区があるとすれば、やってみてはどうかと感じた。

【杉田委員】

先ほどからいろいろなお話があったが、やはり大事なのはコミュニティだと思う。

もうやめてしまったが、高橋鮮魚店は、おばあちゃんたちの集まりの場だった。うちも非常にご厄介になって、安心して行かせてあげられる場所として5年間ぐらい伺っていたが、廃業してしまった。高齢者が自ら進んでお茶飲みができるコミュニティは大事だと感じた。それがなくなったことで、認知症もぐっと進む。

我々もこれから高齢になったときに、地域に何があるのか等、全くわからない状況である。毎日定期的に散歩されている方もたくさんいらっしゃる。この地域は何もないが、散歩できるコースがあったり、道で何回かお会いすると、声をかけてもらったりして、そこでコミュニティが生まれるのではないかと思う。

安全やコンプライアンス等、いろいろなことがあるだろうが、散歩コースやビオトー

プみたいなのがあって、小さいお子さんから幅広い年代が、生き生きしながらコミュニケーションが取れるような場所ができていけばいいのではないかと考えている。

【佐伯委員】

私は東中島に結婚を機に転居してきて来たので、周りのことをあまり知らない。

元旦の地震のときに北諏訪小学校に避難された方がいたが、開いていなかったと聞いた。近所の方が鍵を預かっているが、そのことをその方は知らなかったのだろう。そういった、一部の役員は知っていても、全体が知らないこともある。

また、防災というのは、まず自助が一番大事だと思う。逃げれば安全ということではないし、逃げるのがかえって危険ということもあるので、自分の安全が確保されたときに初めて隣近所は大丈夫かと思える。防災に対しての認識等も、やはり啓蒙していかなければいけないと思う。

このように皆さんと知っていることを共有するところから話合いが始まると思うので、課題が見えなくても、まずみんなが心の中に思っていることを話し合う場があるのは、大変良いことではないかと思う。

【金子祐樹委員】

皆さんの話を聞かせてもらおうと、確かにと思うことが多々ある。自分自身に当てはめると、この地区に不便な部分はないと思う。車で少し行けば何でもある地区だと思うので、すごくいいところだと思っているが、皆さんのおっしゃるとおり、高齢者の目線で見ると、確かにそうだとすごく納得する部分もある。

消防団に入っているが、部長になると、その地域の高齢者リストのようなものをもらえる。個人情報なので駄目だと言われればできないが、そういうリストを消防団以外にも共有することが必要ではないかと感じた。

防災の話になるが、上千原は自主防災組織がしっかりしていて、毎年避難訓練等を行っているが、消防団として感じることは、シナリオが毎年一緒にマンネリ化しているので、果たしてこういう避難訓練をして意味があるのかと感じた。水害等を考えると、本当に何が起きるかわからない。そうなったときに機能するのかと思った。

また、コミュニティについての話があったが、これもとても大切だと思った。

私も、今年小学校に入った子どもがいるが、北諏訪区は登校しているときにパトロールをする町内会長等がいて、安心感があるが、みんなの集まる公園等がない。1か所でもそういうところがあれば、子どもと遊びに行ったときに、「どこどこさんの家だね。」

というように、高齢者との接点ができ、若い人も地域の情報が共有できるのではないかと考えている。

テーマ一覧を見ると、北諏訪区も、考えればいくらでもこういうテーマが挙がってくると思う。今まで挙がってこなかったというが、挙げれば多分きりが無いと思う。これはすごくいい話し合いではないかと思うので、今日話をさせてもらってよかったと思う。

【高橋副会長】

一人一人から貴重な意見を述べていただいた。私は地域協議会委員として5年目になるが、こんなに皆さんに意見を言っていただいた会議は初めてである。

元旦の大地震のとき、私は上千原の自主防災組織に入っていたのですぐ招集がかかり、北諏訪小学校へ向かった。地域としても、この防災の部分に力を入れないと、さらに大きな災害が起きたときに、どうなってしまうのかという危機感はある。

さっき皆さんが言われたとおり、地域のコミュニティがあることによって、どこの家の誰がまだ逃げて来ていない等の安否確認も取りやすくなると思う。皆さんのご意見を聞いて、今日の地域協議会はとても中身の濃い会議だと改めて感じている。

まだ皆さん、いろいろとご意見をお持ちだと思うが、かなりのご意見が挙がった。水害、特に自然災害の件や、どうやって地域のコミュニティを作るか、高齢者等の移動手段の確保など、様々なことを皆さんが考えられているということがわかった。

私は2年ほど前に、今北諏訪区に何か欲しいものはあるかと、30代40代の方にグループLINEで質問してみた。地域の方が集える公園を作ってほしいという答えが一番多かった。各町内には多分公園はあるが、北諏訪区の方々が自由に集まって、家族連れで来たり、友人と来たり、子どもたちだけで来たりする公園らしい公園はない。そこには、バーベキューができるような設備を整えてほしい、屋外でバスケットボールができるようなコートを作りたい等、様々な意見があったが、当然お金もかかるので、かなりハードルは高いが、そういう希望を把握したことがあった。

今ほど皆さんから出た意見を集約して、北諏訪区地域協議会の自主的審議事項として、一つでも二つでもテーマにして取り組んでいきたいと思っているのでお願いしたい。

それでは、本日出た意見を基に、話題としたいことを検討できるように、次回までに事務局とまとめたいと思う。

【金子弘子委員】

今、高橋副会長の話の中に、地域の要望として、「みんなが集える公園のような施設」

ということがあった。地域活性化の方向性の構成要素の中に「くるみ家族園の利活用」が挙げられているが、前期の協議会の中で利活用について何かご意見があったか聞きたい。

【高橋副会長】

ほかの地域では、温浴施設に落語家さんをお呼びしたり、そば打ち体験会をやったり、いろいろと工夫をされている。くるみ家族園でお風呂に入ったあと、娯楽も楽しんでもらえば、コミュニティ活性化につながるのではないかと、前期の協議会で構成要素に入れさせてもらった。

まだ、何も実施に向けての活動はできていないが、まちづくり振興会等と協議を重ねて、実現に向けて一步一步前へ進めて行きたいと思っている。

次に**【報告事項】**地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・別紙1「地域自治推進プロジェクトの概要」

別紙2（案）「地域自治の理想的な姿及び取組の方向性（全体図）」に基づき説明

【高橋副会長】

質問を求めるがなし。

その他、事務局何かあるか。

【石崎係長】

- ・次回協議会：8月下旬以降

【高橋副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。